

Economic Indicators

発表日: 2024 年 6 月 19 日(水)

貿易統計(2024 年 5 月)

～自動車輸出の持ち直しは鈍い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
				輸出金額	輸入金額			アメリカ	EU	中国			アメリカ	EU	中国
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
23年	1月	▲ 35,280	▲ 18,461	3.5	17.5	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.6	▲ 26.2	▲ 2.5	▲ 0.9	▲ 8.3	▲ 1.2		
	2月	▲ 9,289	▲ 12,973	6.5	8.3	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.7		
	3月	▲ 7,509	▲ 12,759	4.3	7.0	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.9	▲ 5.7	1.8		
	4月	▲ 4,298	▲ 10,243	2.7	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.3	▲ 1.5	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1		
	5月	▲ 13,823	▲ 8,115	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.4	▲ 6.6	▲ 6.3	▲ 10.5		
	6月	365	▲ 5,283	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.4	▲ 14.0	4.9	▲ 13.9		
	7月	▲ 613	▲ 5,112	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.1	▲ 12.0	15.6	▲ 16.1		
	8月	▲ 9,401	▲ 4,931	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 9.5	5.1	▲ 13.8		
	9月	606	▲ 3,965	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.6		
	10月	▲ 6,682	▲ 3,771	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.3	0.1	1.0	▲ 2.3		
	11月	▲ 7,883	▲ 3,600	▲ 0.2	▲ 11.8	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.6	0.4	▲ 3.3		
	12月	589	▲ 5,081	9.7	▲ 6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.1	▲ 5.5	▲ 13.8	▲ 0.6		
24年	1月	▲ 17,665	▲ 445	11.9	▲ 9.7	2.3	7.1	▲ 0.2	20.4	▲ 8.4	▲ 3.8	▲ 22.1	▲ 9.2		
	2月	▲ 3,830	▲ 5,704	7.8	0.6	▲ 1.5	10.9	3.5	▲ 7.1	1.3	6.7	▲ 3.1	12.6		
	3月	3,824	▲ 6,953	7.3	▲ 5.1	▲ 2.1	1.8	▲ 6.5	0.9	▲ 9.7	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 19.4		
	4月	▲ 4,656	▲ 5,813	8.3	8.3	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 13.7	▲ 5.1	0.6	16.2	▲ 0.4	1.7		
	5月	▲ 12,213	▲ 6,182	13.5	9.5	▲ 0.8	6.7	▲ 17.9	▲ 0.4	▲ 1.9	13.0	▲ 2.6	3.8		

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字継続

財務省より発表された5月の貿易統計では、輸出金額が前年比+13.5% (事前予想: 同+13.0%)、輸入金額が同+9.5% (事前予想: 同+10.5%)、貿易収支は▲12,213 億円の赤字 (事前予想: ▲13,004 億円の赤字) となった。

季節調整値では、輸出金額が前月比+1.2% (4月: 同+0.9%)、輸入金額が同+1.5% (4月: 同▲0.4%) となり、貿易収支は▲6,182 億円の赤字 (4月: ▲5,813 億円の赤字) と赤字が拡大した。輸出、輸入ともに資源高や円安等に起因した物価上昇を反映して価格ベースが押し上げている。そうした中、後述する物価変動を除いた実質(数量)ベースでの輸出では弱い動きが継続していることで、貿易収支は赤字基調が続いている。また、輸入については円安や原油価格上昇を反映して今後も伸びが加速する可能性が高く、先行きの貿易収支は赤字拡大のリスクが高まっている。

○実質輸出は4-6月期も限定的な反発に留まる見込み

物価変動の影響を除いた実質輸出をみると、前月比▲2.4% (4月: 同+0.1%) となった (実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが前月比+2.0% (4月: 同+0.2%)、欧州向けが同▲11.6% (4月: 同+1.3%)、アジア向けが▲2.2% (4月: 同▲0.4%)、アジア向けのうち中国向けが同+1.8% (4月: 同▲4.3%) となった。

米国向けは、一般機械 (米国向け前月比寄与度▲0.7%pt) の減少傾向が続いているが、主力の輸送

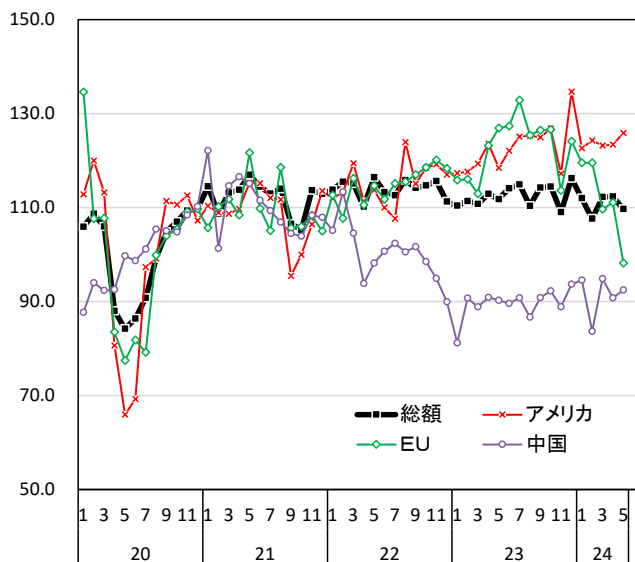


用機器（同+1.9%pt）や、ハイテク需要の回復による電気機器（同+2.3%pt）の持ち直し等が下支えとなり、均せば底堅い動きが続いている。他方で、今月大幅な落ち込みとなった欧州向けは、輸送用機器（欧州向け前月比寄与度▲6.8%pt）、一般機械（同▲1.2%pt）、電気機器（同▲0.9%pt）といった資本財を中心に幅広い品目で減少しており、欧州経済の減速を反映して明確な減少基調にある。中国向けは、主力の一般機械（中国向け前月比寄与度+0.5%pt）を中心に持ち直しの兆しがあり、長らく続いた低迷状態から緩やかな持ち直しがみられる。

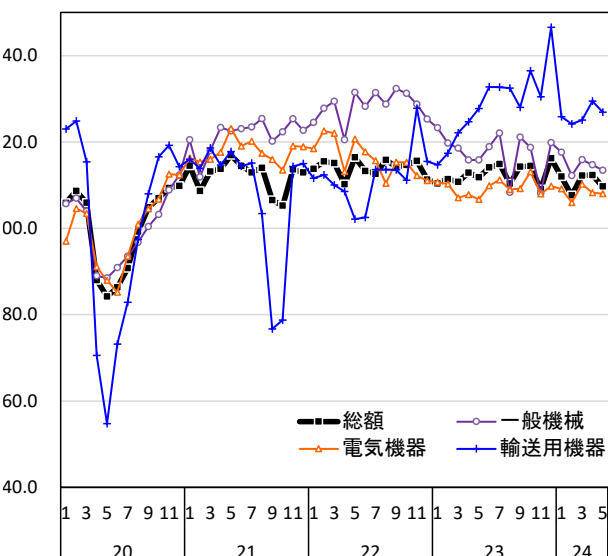
主力である輸送用機器（対世界）は、前月比▲2.0%（4月：同+3.5%）と3か月ぶりに減少した。輸送用機器は、24年年明け以降の一部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて1-3月期に前期比▲9.3%と大きく落ち込んだ。その後、足元における4-5月平均は1-3月期対比で+2.5%に留まっており、4-6月期に期待されていた反発は鈍い。当初の想定よりも自動車生産の正常化に時間を要していることもあるが、上述の通り欧州向け輸出が明確に減少基調にあることなど、海外景気の減速を反映した需要縮小の影響もあるだろう。

先行きについて、当初想定されていたよりも自動車認証不正問題の影響が長期化していることで、自動車生産の正常化は後ずれする可能性が高い。加えて、もともと減産前から米国向け、欧州向けでは積み上がり需要の一巡によって自動車輸出の減速感が強まっていたことから、4-6月期も力強さは期待できない。足元での世界的なハイテク需要の回復は、一般機械（半導体製造装置など）や電気機器（電子部品や通信機器など）の輸出増に繋がることが期待できるが、明確な動きはまだみられない。総じて、実質輸出は1-3月期からの反発は限定的に留まり、弱い動きが続きそうだ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

